

人間に秘められている 不思議なもの

前回までが何か年寄りの思い出話のような印象を与えたとして、誠に申し訳ないです。私馬場としては、「人間は自分でもまだ気づいていない不思議なものを秘めている。それが一たん目覚めると、自分が予想もしなかった素晴らしいらしい人生が展開する」ということを、ささやかな自分の人生体験を材料にして皆様に訴えたかったのです。



「やれば出来る!!」

「明日出来上ります」と報告すると、「やれば出来る」と。驚きました。

「世の中変わる!!世の中がどんなに変わっても変わらないものを、自分の責任で見つけそれを人生の土台にして生きていきたい」という志が目覚めた(志を立てた)のではなく、②すると、まるで天がそれを導き実現するように、ピツタリの時にピツタリの出会いが起り、次々と人生が思いがけなく素晴らしく展開してきた」ということです。

T先生のもとで 学んだこと

T先生の許での5年間は「自分に隠れていた素質が次々と眼覚めていく体験の連続でした。『現象界尽きる時、霊界現る』と云って、次々と困難な実際問題に立ち向かわされ、鍛えられました。機関誌の編集を任せられ、先生の講義と仲間の体験談を毎月40頁にまとめる仕事を3時間しか寝ないで全力投球の日々の最中、「来月号は「200頁1万部、無料配布とする」と言われた時は驚きました。編集に4週間かかりやつと印刷所に行く」と馬場さん、無茶を言うな!!2月かかると、そう報告すると「貴様、オレの使か印刷屋の使か!!」「ハイ、先生の」なら、オレの言った通りにしてこい!!」結局社長さんの温かい配慮で「全

来訪されるようになりまして。いきなり通訳を命じられてピツタリしましたが、横に立つと相手と言い終わる前に不思議に意味が分つて直ぐ訳が口から出てくるのに驚きました。ある大学教授の場合、あまりに好調の訳が湧き出るので相手の方が踊り出し、私も同じ身振りで踊り出し、三千余の皆さんも大喜びの渦になり、壇を降りた時、相手が「ユーアンドアイワワンインスピリット」と言つて私を力いっぱい抱きしめるほどでした。



連載 『ほんとうの自分』とは?

第2の新しい道

～我が命の燃焼の場に!～

馬場 俊彦

(名城大学名誉教授)

また、T先生の聖書塾には全国から働きながら聖書の生き方を学びたいと、若い子連れの夫婦などが何十組も集まり、貯金はゼロながら、赤ちゃんのおむつ、乳母車から粉ミルクまで融通し合つて、本当に楽しい有り難い助け合い生活をしていました。

最終回

「人間の心の深いところに、これほどまでの助け合い、奇跡的なまでの力が秘められている」ということを私どもは夫婦して学びました。「厳しい現実と競争社会のなかで、人間、新しい生き方ができる!」(貨幣不要の経済の原型?)と新しい驚きの毎日でした。また、私自身は、イスラエルのキブツに2ヶ月余り留学しました。キブツは長年世界各地で迫害されて来たユダヤ人が、自分たちの先祖の魂を育てたあのカナンの地に帰ろうと願い、持ち物を売り払いアラブ人が見捨てていた荒れ

地を買い開墾して造った財産共有の農業集団です。そこで私は皆さんと一緒に働きながら旧約聖書の原語ヘブル語を学んだのですが、荒地を開墾してゆく彼らユダヤ人の驚くべき逞しさに大きなショックを受けました。日本人としての狭い常識が破られる思いでした。

宗教団体への疑問

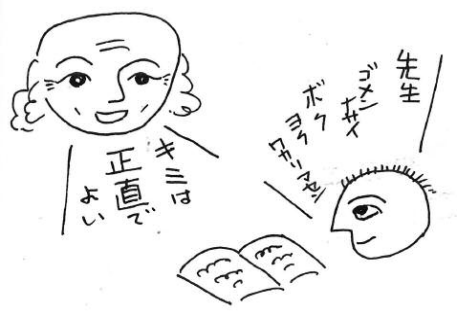
T先生の許での5年間は人間としての大きな目覚めの有り難い5年間でしたが、やがて宗教団体というもののあり方に大きな疑問の湧く時期ともなりました。宗教は素晴らしいとしても、団体となると、ついその維持と拡大が目標となり、世俗的な経営の焦りが出てきやすい。それと「弟子達によるリーダーの絶対視と絶対服従」です。T先生は、「今年中に各人7人の魂を神の祭壇に」という目標を叫ぶなど、運動の拡大を焦られる様子が見えてきて、全国各地で活動している弟子達をひどく叱り始めました。「宗教が信徒の数を教え始めたら、それは終わらだ」との哲人エマソンの言葉が浮かんできました。「なんとかせねば、この素晴らしい運動がだめに

なる」。とうとうある夜、決心しました。「先生に意見を言おう」と。すると事務所の階段を上る時自分の身体が頭の前から足の先まで水晶のように透き通る感じがしました。不思議でした。数日後あることで「先生、それは違いました」とハッキリ言いました。すると先生は顔を真っ赤にして激怒されたが、クビにならなかった。ところがある時、ある出来事が

起こり、「ワシはT批判の風潮が全国に広がるのを怖れる」と私に言われました。その時は「ついに辞する時が来た」と決心しました。

そして家に帰り妻に「このままこの先生の許にいては私たちの人生、大きな間違いになる」と理由をきちんと説明しました。妻は「今夜初めてあなたの尊さがわかりました」と言ってくれました!!「しばらく塩水すすする暮らしが続くと思うがいかが?」と尋ねると「一生に一度くらいはそういう時があつてもいいと思います」との答(頼もしい妻!!)。それで翌日深夜、郷里の弟に車を頼んで幼子2人を抱え夜逃げをしました。

ある先輩は「このグループを離れて、どうやって生きていくか?」と心配されましたが、「馬場俊彦にまだ役割が残っている間は神様は決して飢え死にさせなさいませんと」言いました。実はT先生自身、ある時こう言われたのです。「人生右するか左するか悩む時、損得の計算を捨てれば、答は意外にはつきりする」と。私はまさにこの助言に従つたわけですが、また「自分の人生の土台は自分の責任で確認する」(他の人の目を怖れず、損得に流されない)との中学時代の決意は一貫してきたわけですが、「リーダーの絶対視はこの決意に反する」と。この夜逃げの実行で、さらに第2の新しい道が開けることになりました。



《82歳の今思い出しても涙が溢れます》

最初の授業の日、一人の学生が、「先生、どうしましたか?腕に鳥肌が立っている!」と言いました。「実は16歳のある日、親友N君に『君は大きくなったらどんな人間になりたいか?』と聞かれた時に『柴山先生みたいになりたい!』と言いました。18年後の今、先生と同じ名城大学にいます!不思議!!』と答えました。

そしてこの学生を中心に馬場ゼミが始まりました。学内から始まり、やがて、大借金をして郊外に家を建て、土日の泊りがけでのゼミです(妻の大協力)。大教室での教育では不足で、お一人お一人向き合いたかったからです。名城大学の学生たちは、何か私に似て、試験下手で、万事要領の悪い子が多いのですが、私にはその分室の山で、一人一人の隠れた素質を見つけ褒めることに熱中しました。

また、「自分一個の安定生活を求めるのでなく、世界を広く見渡して、自分を待っている役割を見つけよう」と言つて学び合いました。在職45年間、素晴らしい出会いの連続で、一人一人志を見つけ、素晴らしい成長されました。この皆さんを通して、いよいよ、人間に秘められた命の素晴らしさを学び続ける人生となりまし。また看護教員に復職した妻の学生さんたちの実習レポートを夫

学生さんたちの 出会い

郷里に帰り早速、恩師柴山先生を訪ねると、「名城大学を手伝いなさい」と。すると不思議にその年、理工学部で英語の先生の欠員が出来ていて、柴山先生の推薦で専任教員となれました。翌年、先生は定年で御退職でした。まるで綱渡りの人生です。このタイミ

婦で味わい、さらに現場の看護師さんたちとの「終末期の患者さんの精神面への関わり」の事例研究会を通して、「死を前にして顕わとなる人間のいのちの深さ、素晴らしさ」を生生しく学び続ける人生となつて来ました。私の学問いや、人生そのものが、学生さん・看護士さんとの出会いで育てられて来たのだと痛感しています。神様に大感謝!!今日、若者たちがともすれば「安定した大企業への就職」に憧れたり、「どこでもいらいから拾ってくれる所を探す」と自分の安売りに走つたり、それも出来なければ無差別殺人に走つたり、本当にもつたない話です。お一人お一人が《自分に秘められた命の尊さ》を知つて、それを発揮する人生を生きられるように、そして素晴らしい人類の新时代が来るように、残る命を余す所なく捧げたいという願いが、82歳の今も湧き上つてなりません。

●馬場俊彦先生のこの人生 体験のお話の続きは、先生 の著書『ほんとうの自分』 に掲載されております。

▼お申し込みは、いのちの森「水輪」まで
電話 026-2309-2630
上(423頁)、下(515頁)各十
円にて頒布しております
また、次号からは、「日本の現状と将来を思う」を持つて生まれた尊いいのちを發揮するために「(仮)」というテーマにて馬場先生の新しい連載が始まります。どうぞお楽しみに。

ばばとしひこ 1932年岐阜県に生まれる。1951年東京大学文学部哲学科に転進。修士修了するも博士課程不合格。前途に絶望。ある夜自殺寸前から立ち上がり、以後不思議な人生の展開を経験。1966年名城大学就職、理工学部で英語・哲学担当。同大学大学院総合学術研究科・経営学研究科、また愛知医科大学看護学部で人間学を講義、現在名城大学名誉教授。

ご多忙な帯津良一先生が、3日間もお越しただいて、学べる講座は全国でもいのちの森文化財団の養生塾だけのようです。講座には、がんの患者さん・ご家族、がん以外の病気の方、健康な方、どなたでもご参加いただけます。
 今回8月22日(金)～27日(水)養生塾の様子を参加者の感想を交えてレポートさせていただきます。また、帯津先生の最新刊を一部抜粋してご紹介させていただきます。

★一日目

帯津良一先生基調講演
テーマ「がんとは何か」



楽しくてためになる帯津先生の講演

▼「ときめき」「粹」「旅情」等々の言葉はロマンティックで想像力を広げていく切り口でした。大変わかりやすい言葉で深いお話ばかりでした。机上で生まれた言葉ではなく、先生の日々の中から実感されている先生の体を通って出てきたお話ばかりです。楽しく、うれしく、ときめきました。(M.K.)
 ▼楽しいお話でした。考え方ひとつで、がんと明るく向き合っている生きていくことありだと思えてきました。(H.N.)
 ▼ガン患者の皆さん、生き生きしている表情がすごいです。帯津良一先生存在そのものがそうさせている事に気がきました。一時も休まず笑いを誘う語り、ことだまがひびき渡っています。そんな中に



すがすがしい朝の白樺林での気功

一緒にいられた事で幸せいっぱいです。(M.F.)

▼人を総合的に見てくださるDr.が居られることに感動しました。又、エントロピー

の事、それを外に出す、汗をかく、作業に励む、吐く息、呼吸法、又、日常の心の持ち方、ときめく事を考える事、心がけて、人生を楽しみたいと思えました。何より、どんな状況になっても、色々な治療法がある事が安心しました。(S.T.)

～健康社会教育事業～

帯津三敬病院名誉院長
日本ホリスティック医学協会会長

帯津良一先生 養生塾

実施レポート

★二日目・三日目 昼
車座交流会

▼皆さん多難をのりこえておられて、その中で自分のことが客観的に見えてきて、大した事ではないと感じました。又、先生に肯定して頂くことで、こんなに大きく安心を得る事が出来ました。進行の塩澤さんは、帯津先生と大きな信頼で結ばれておられるため、すばらしい進行です。私も皆さんも緊張してまともでない中、意を汲んで導いて頂きありがとうございました。(M.K.)

▼ひとりひとり丁寧に答えていただき感激です。いのちのエネルギーの場を探すことに心ときめき、そのエネルギーをひとつひとつもらって、少しでも治るよう生活していきましょうと元気ができました。塩澤先生のつっこんだ質問、話を深く掘り下げてください、がん患者や、世の中の人への優

の気功はとても良いものでした。1日のはじまりにふさわしく、すべて(心・体)リフレッシュ出来ました。続けていきたいです。(H.N.)

★二日目・三日目 朝
呼吸法・気功実技指導



悩みや疑問が解決できる車座交流会

▼大人数でやることの楽しさを感じました。イメージのとおり方など疑問もお答え頂き、とてもスッキリしてこれからの励みになりました。(M.K.)
 ▼楽しいお話と、すがすがしい朝

▼間近で先生の「氣」を感じながらの講義は大感激でした。先生の足元にも及びませんが、その時(死)めざして、気を高め突入していこうと勇気を頂きました。先生の博識、現場で得られた実学、体中から出られる他者へのやさしさ・云いつくせませんが。大きな安心につつまれた講義でした。(M.K.)



帯津先生の志を感じるお話です

★二日目 午後
いのち学特別講義
テーマ「医師と患者の関係性について」

▼医学一辺倒の日本の医療界は改めて「医療」の大切さを考えなければならぬと思えました。医療すなわち人間の尊厳を守る行為は、西洋医学と、自然治癒力と、患者と治療者の関係性で成り立っているということが印象に残りました。治療者になる者として、もっとも人間的に成長して行きたいと強く感じました。(M.F.)

先ほどお話した、粗塩で劇的に回復した女性はどうかだつたでしょうか。彼女は、幼い子供のために、絶対にあきらめないぞという強い気持ちをもっていました。その片隅に、「いつでも死ぬ」という覚悟があったのでしょうか。私は、あつたと思います。

「いつでも死ぬ」という気持ちをもつことは、口で言うほど簡単ではありません。特に、がんという大病を患っている人は、いつも死の不安を抱えています。できれば、死のことは考えたくはないはず。そんな人に、脳でもないとはいえず、「いつでも死ぬ」という覚悟をもつというの、酷なことかもしれません。



今を精いっぱい生きると、
人生のあらゆる不安は消えていく。

一生分の思いをお子さんたちに伝えたいと必死だっと思えます。精いっぱい愛情をお子さんたちに注いだことでしょうか。これは執着ではありません。いつでも死ぬという思いの表れです。

「いつでも死ぬ」という思いというのは、先のことを心配したり、過去のことを後悔してこころを煩わせるのではなく、今を精いっぱい生きるということです。そんなことを考えたくないという人は、死のことは頭から外してしまつていい。ただし、今に意識を置いて、今を精いっぱい、大切に生きることに全力を尽くす。

- 2015年 帯津良一先生の講座日程が決まりました！
- がん患者のための 養生塾 ～体の養生 心の養生 食の養生～
2015年4月10日(金)～15日(水) / 6月5日(金)～10日(水)
9月4日(金)～9日(水)
 - いのち学～人はなぜ治るのか 医師と患者のやり取り実践～
2015年4月10日(金)～15日(水) / 6月5日(金)～10日(水)
9月4日(金)～9日(水)
 - ホメオパシー講座 2015年7月31日(金)～8月2日(日)

2015年 養生塾15周年記念行事
～帯津良一先生感謝祭～ が開催されます！
2015年5月15日(金) 15時～17日(日) 13時
プログラム/講演：帯津良一、車座交流会、気功実技指導、記念パーティー：梵天・和太鼓と帯津先生・演舞の共演
※どなたでもご参加いただけます。詳細はお問い合わせ下さい。



私には、毎朝、病院の道場でひとりで太極拳を舞います。たった一回だけです。しかし、この一回は、全身全霊を込めての太極拳です。昨日のことを思い煩ったり、これからのスケジュールを考えたりすることは一切ありません。今、この瞬間に集中します。いつも、これが最後の太極拳だと思つて、気持ちが変わってきます。

何かひとつ、「これが最後だ」と思つて取り組むものをもつこと。それが、「脇に、いつでも死ぬ」という気持ちをもつこと」なのではないでしょうか。

死ぬことを恐れない人は、とても魅力的。
それは結果にとらわれない潔さがあるから。

般若心経などのお経を、なぜ読経をした方がいいのか？

今年度、宮島基行先生の日常断食講座で、お話より一部ご紹介させていただきます



これは、断食中は呼吸法をした方がいいんですね。断食中は何かにつけて動いた方がいいし、呼吸をした方がいい。全て新陳代謝に役に立つ。読経は呼吸法に役に立つという事になります。

ただし、読経の目的が呼吸法だということとそれは間違いです。それだけじゃないからです。読経、あるいはお経を読むという事は、最終的には、中を理解する事。中に何が書いてあるか。フランス語の本を読んでも、意味は分からないけどただそれがすらすら言えるようになったらもうそれでいいやと。それじゃあ、その小説の中、なんですかって聞かれちゃいますね。中が分かんなかったら何にも意味がありません。

だったら言わなくて、ただ中だけ読めばいいじゃないかと。それだと、昨日ちょっと話しましたが、実は、私たちの勉強法というのは日常生活に役に立つという事が問題なんです。皆さんが、般若心経の本を何か1冊買ってきて、大切な本ですよ、それで、こんな風な感じだな、はい、おしまい。それ本閉じたとなんにも全部忘れちゃうんですね。難しすぎて、また易しく書いてあっても中々日常の役に立てられないんですよ。

どうしてか。昨日、蚊の話しましたね。ぷーん、て飛んできて手で叩ける。小さい時に生き物をあんまり殺しちゃいけませんよ、と聞いたとしても、現実の場面でその言葉を思い出せなかつたら、役に立たないですね。役に立つようにするための勉強であれば、そういう事を計算に入れておかなきゃいけないですね。読経をするという事は、不殺生とか唱えるし、般若心経を唱えるというの、何かあった時にすぐ思いだ

せる様にする為なんです。その為には、記憶の中に、いつでもそこから取り出せるようにしておく必要があるし、潜在意識にも入れとく必要がある。ということで、声を出してそれを言う、お唱えする、という事が大変役に立つという事になってくるわけです。

逆にいうと、そういう事しないといけないに適用していくんですね。お経は、在家さん向けのようなんです。お経自体は、そんなに少ないものではないんですね。ブリタニカ百科辞典みたいなもの、百冊分くらいあります。中全部漢字だけですよ、ひらがな無しで。ですから、物凄分量あつて、それらは全部言う為のものじゃないんですね。お経は、中を理解するためのものです。一番肝心な所だけは、とにかく言うように、お唱えするようにして、日常生活に思いつくようにお唱えするんですね。もちろん、一心不乱にお唱えして修行してる人が時々居る訳です。そういうのは役に立たないのか？

役に立つのです。どうしてかというのと、呼吸法になるし、もう一つは、何か一つの事に集中するという事です。一つの集中力を高める行法にもなるんですね。私たちは集中力がないと、中を理解する能力が育た



分かりやすい言葉で、般若心経について、日常生活での疑問についてお話して頂きます

ないんですね。お経を読むのに、理解するのに集中力が、これが要るんですね。私たちが日常の意識では何にも見えない気が付かない事が、集中力を高めて、日常じゃない意識状態の中で、初めて気が付く事っていっぱいあるんですね。例えば、今外に行ったら恐らく、この中ではああいいうストロブが鳴っているの聞こえませんが、ほんのわずかに木も揺れてますし、風がちょっとあつたり、カサカサって音がしたり、外には、今ここのは聞こえないような音がいっぱいしているはずなんです。夜、ストロブも全部切つて、そして、静かになつたらここでも聞こえる、というような音がいっぱいあるはずなんです。それはいつも鳴ってるんですよ。ただ私たちの心が騒がしい時や、何か騒がしい時には聞こえなくなつて、自分たちが静かな時にだけそれらの音は聞こえるんですね。そういう事っていっぱいある訳です。心の中つてそうなつてるんですよ。

日常の意識があるうちは、この日常生活のこの普通の意識があるうちは意識が騒がしくて聞こえない。ですから、死ぬ時だけしかわからない意識状態もあるんですよ。そういうときにだけやつと自覚できる、生きてる間中もずっとあるんですけどね。そういう意識状態があつて、それを修行として利用する方法とかもあるんですね。というのは、死ぬ時にも利用するし、出来ることなら人工的にそういう意識状態を作り出して、どう作り出すかと言え呼吸をすごく少なくしてですね、1分間にいっぺんとか2分間にいっぺんとか減らしてしまふんですね。普通だつたら苦しくて大変なんです。訓練によつて出さないことはないんですね。一種の仮死状態みたいなものを作り出します。そもそも私たちの呼吸がそのままでなくとも、呼吸を静かにしてくと、普通気が付かないものでもよく気が付くようになります。そういう状態で自分の心を色々観察する時に、このお経に書いてあることが役に立つんですね。そういう事です。ですから、話が戻りますが、お経を一心不乱にちゃんとお唱えするというのは、そのような集中力を養うのに役に立つ。しかも呼吸法にも役に立つ。どんな呼吸法かと言えは、長い間吐いて、ちよつと吸う、長い間吐いて、ちよつと吸う、という事になるんですね。えー般若波羅蜜多：ちよつと吸つて、...という事で、その呼吸が呼吸法に役に立つんですね。集中力を発揮するのに役に立つんです。これは、どんな仕事をしようかと、別に何の宗教や教えであろうと、それは役に立つんですね。逆にいうとこの集中力が無い限りは、何をやつたつて奥深い所のこととは分かるはずありません。細かい事がわからないって事に成るんですね。しかし、だからまあお経じゃなくてもいいんですね、何でもいんです。しかし、その集中力で何を理解したらいいかという事に関しては、このお経の中を勉強しながらでなければ、自分の心のどういう側面を理解しようとしているのか。あるいは社会や宇宙がどうなつていっているかをどういう形で、どういう風にして見ているのか。

2015年 いのちの大学講座 (学長 帯津良一・副学長 巽信夫) ～人生をよりよく生きる～ (日程は変更になることがあります)

「心の探求 ～般若心経の真髄をひもとく～」
講師 宮島基行先生 (高野山真言宗阿闍梨 南山進流声明第一人者)
2015年 1月10日(土)～12日(月祝)
8月28日(金)～30日(日)
※身近なことでも質問できます。
・心とは何か? ・人間の本质は何か? ・もうダメだと思った時、どのように突破するのか? ・限界を乗り越えることにどういう意味があるのか? など

「養生塾 ～体の養生 心の養生 食の養生～」
講師 帯津良一先生 (帯津三敬病院名誉院長)
2015年 4月10日(金)～15日(水)
6月5日(金)～10日(水)
9月4日(金)～9日(水)
選べる4つの養生塾参加コース：2泊3日ショートコース、3泊4日ベーシックコース、4泊5日リフレッシュコース、5泊6日自然治癒力アップ・しっかり養生コース

「いのち学」
講師 帯津良一先生 (帯津三敬病院名誉院長)
2015年 4月10日(金)～15日(水)
6月5日(金)～10日(水)
9月4日(金)～9日(水)

「生老病死のホメオパシー講座」
講師 帯津良一先生 (帯津三敬病院名誉院長)
2015年 7月31日(金)～8月2日(日)
「養生塾15周年記念行事 ～帯津良一先生感謝祭～」
講師 帯津良一先生 (帯津三敬病院名誉院長)
2015年 5月15日(金)～17日(日)

「心の病とやさしい心理学」
～心の病になぜなるのか 心の病は治るのか～
講師 井上弘寿先生 (精神科医)
2015年 4月19日(日)、10月18日(日)

「脳と心の勉強会」
～脳と心と体のつながりについて学ぶ～
講師 久間祥多先生 (脳神経外科医)
2015年 5月、10月 (予定)

「気功合宿」
講師 中健次郎先生 (気功家・鍼灸師)
2015年 Aコース 9月19日(土)～21日(月祝)
2015年 Bコース 9月21日(月祝)～23日(水祝)
自己変容のための合宿。気功で心と体を整え、真の健康・真の自己を取り戻しましょう。今回は二泊三日を二回続けて行います。内容は異なったものとなります。通

しでのご参加をおすすめしています。
「自然観察」
講師 塩澤研一 (いのちの森文化財団副代表理事)
信州の美しい自然観察を通して環境問題を考える講座と実習。清掃活動も同時に行う。
「集中内観セミナー」【随時開催】
面接 塩澤研一 (日本内観学会会員)
「リーダーシップセミナー」【随時開催】
講師 塩澤みどり (いのちの森文化財団代表理事)
「青少年育成・自立支援個別相談事業」【随時対応】
相談者 塩澤みどり (いのちの森文化財団代表理事)
アドバイザー 巽信夫 (前信州大学医学部助教授)
「こけ玉グリーンアートセラピー」【随時開催】
「いのちの森の学校」【随時受入】
「シーズンチャレンジボランティア」【随時開催】
長野市社会福祉協議会主催のサマーチャレンジボランティアへなどの協力
「『総合的な学習の時間』の支援としての農業体験」【随時受入】
※詳細はお問い合わせ下さい
いのちの森文化財団事務局 TEL 026-239-0010